

令和4年度・5年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



令和5年11月
鹿児島市立星峯中学校

目 次

1	はじめに	
(1)	鹿児島市の概要	1
(2)	校区の概要	1
(3)	本校の概要	1
2	研究の概要	
(1)	研究主題	2
(2)	主題設定の理由	2
(3)	研究の目標	2
(4)	研究組織	2
(5)	全体計画	3
(6)	研究活動の経過	4
3	研究の実際	
(1)	令和4年度租税教室	5
(2)	令和5年度租税教室	6
(3)	税に関する授業実践	11
(4)	財政教室	12
(5)	税に関する作品への取組	14
(6)	税の書籍コーナーの設置	14
4	成果と課題	
(1)	アンケート結果と考察	14
(2)	成果と課題	18
5	おわりに	18

1 はじめに

(1) 鹿児島市の概要

鹿児島市は、九州の南端、鹿児島県本土のほぼ中央部にあって、北は姶良市、西は日置市、南は指宿市などと接している。人口約60万人の県都であり、市街地の眼前には、雄大な桜島や波静かな錦江湾という世界的にも希有な自然景観が広がり、多彩な自然資源に恵まれるとともに、業務・商業機能などの都市機能が集積した魅力ある都市空間が形成されている。

鹿児島市が藩政の中心となり、南九州の雄都の地位を占めるに至ったのは、第6代島津氏久公が東福寺城（現鹿児島市清水町）を居城にしたとき（1340年頃）に始まると言われている。以来500年にわたる島津氏の統治下のもと、鹿児島市は南九州一の都市として着実に繁栄と進展の歴史をつくりあげた。近代日本の黎明、明治維新においては、薩摩藩の元勲西郷隆盛・大久保利通などを筆頭にその原動力となり大いに活躍したのをはじめ、黒田清隆・松方正義・山本権兵衛が歴代総理大臣を務め、軍人では西郷従道・大山巖等、教育界では森有礼（初代文部大臣）、実業界では五代友厚が、また文化の面でも黒田清輝・藤島武二（洋画家）、有島武郎（小説家）等、幾多の人物を輩出した。その間1871（明治4）年に廃藩置県とともに県庁の所在地となり、1889（明治22）年4月には市制が施行された。

鹿児島市は、第二次世界大戦の戦火で市街地の約9割を焼失したが、市民のたくましい建設意欲のなかで思い切った都市計画が策定され、将来の躍進に備える礎が築かれた。戦後は観光・商工業の発展とともに市域も拡大し、平成8年4月1日には中核市に指定された。また、平成16年11月には周辺の5町と合併し、現在の鹿児島市が形成されている。

（鹿児島市ホームページ、第六次鹿児島市総合計画より引用）

(2) 校区の概要

本校区は鹿児島中央駅から西方に6km、標高100mの星ヶ峯ニュータウンに位置し、星ヶ峯東小と星ヶ峯西小の2つの小学校校区からなる。元々はシラスの浸食によってできた谷がはしる台地であったが、人口の都市集中化現象により、1977（昭和52）年から南北1.5km、東西1.2kmにわたって団地が造成された。校区内の世帯数は5,171戸、人口は12,478人（R4.1.1現在）である。地名の星ヶ峯は、この校区にかつて存在した蕨野集落にあった「星ヶ峯」という小字の名称を使ったものである。

校区内から東の稜線の向こうに桜島を望み、緑の山々に囲まれている。また、学校に隣接した「せせらぎ公園」は清流が流れ、人々のいこいの場所となっている。その周囲には交番、郵便局、銀行、病院、幼稚園、保育園等があり公共施設は充実している。校区内の方々や保護者の教育に対する関心は高く、学校の教育活動に対して協力的である。

(3) 本校の概要

本校は1982（昭和57）年4月1日に開校し、令和3年度に創立40周年を迎えた。創立10周年の際制定した「ひたすらに求め、ひたすらに進む」を校訓とし、「他とともによりよく生きる生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、令和5年9月現在、479名の生徒と44名の教職員がともに日々の学校生活を送っている。

多くの生徒が素直で人なつこく、さまざまな学習活動や学校行事に一生懸命取り組んでいる。生徒会活動や部活動にも熱心に取り組み、好成績を収めている。

2 研究の概要

(1) 研修主題

租税教育を通して、税に関する関心と正しい理解を深めるとともに、これからの中学生を、将来の納税者として、他とともによりよく生きる生徒を育成する。

(2) 主題設定の理由

現代社会における大きな課題の一つに、少子高齢化があげられる。2021（令和3）年の我が国の総人口は1億2,550万人となっており、総人口に占める年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、65歳以上人口の割合は、それぞれ11.8%、59.4%，28.9%となっている。さらに、2005（平成17）年以降、生まれてくる子どもの数よりも亡くなる人の数が多いという人口減少社会に突入しており、今後ますます少子高齢化が進むとともに、65歳以上人口を生産年齢人口で支える割合も低くなるという予測が出ている。

そのような状況において課題となってくるのが、年金や医療、介護といった社会保障制度の充実のための財源確保と生産年齢人口一人あたりの負担の増加の問題である。給付を受ける世代が増加し、負担する世代が減少しているため、社会保障制度の財政は不安定になり、これからの中学生を生きる中学生にとって大きな問題を投げかけていることになる。

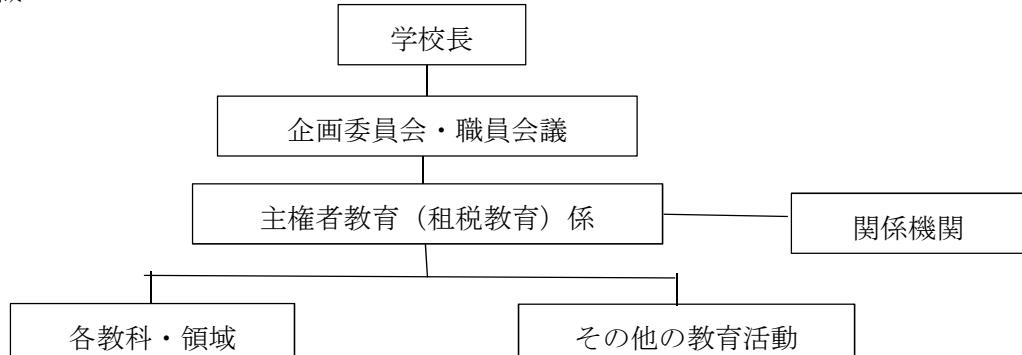
社会保障制度の充実だけでなく、公共サービスの提供においても税金の果たす役割は大きく、現代社会において税金は必要不可欠なものである。しかしながら、本校の生徒の中には、税金の意義や役割を正しく理解できていなかつたり、財政に関する事象や課題を自分事として捉えていなかつたりする現状がある。鹿児島県の租税教育のねらいである「租税に関する知識を通じて、郷土について関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家および社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し行動するための諸能力を育てる」ことも課題の一つだと言える。

そこで、租税教育を通して、租税に関する関心を高め、正しい理解を深めるとともに、本校の教育目標である「他とともによりよく生きる生徒の育成」と絡めながら、これからの中学生を生きる市民の一人としてどうあるべきかを考える生徒を育成したいと考え、本主題を設定した。

(3) 研究の目標

- ア 租税や財政についての関心を高めさせ、その意義や役割の正しい理解を深めさせる。
- イ 租税や財政を身近なものとして捉えさせ、社会を支える一員としての自覚をもたせる。
- ウ 租税教育を通して、他とともに社会を形成し、社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。

(4) 研究組織



(5) 全体計画

本校では、租税教育を主権者教育の一つとして捉え、全体計画を以下のようにたてた。

主権者教育全体計画				
・ 関連法規 ・ 中央教育審議会答申 ・ 教育課程審議会答申 ・ 鹿児島市の重点	学校教育目標 他とともに、よりよく生きる生徒の育成	・ 生徒の実態 ・ 保護者の要望や実態 ・ 地域の要望や実態 ・ 学校の願い		
主権者教育の目標				
政治や経済の仕組について必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を発達段階に応じて身に付ける。				
主権者教育の重点目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会や政治の仕組や働き、自分の生活との関連について理解させるとともに、自ら調べ、判断し、行動する能力を育てる。 ・ 各教科や特別活動など学校の教育活動の様々な活動と関連付けて指導を行うとともに、体験的な学習活動を推進し、主体的に学習しようとする意欲を高める。 ・ 物事を多面的に捉え、自分なりの考えをもつとともに、他と協働しながら生活をしていくとする態度を養う。 				
主権者教育で育成を目指す資質・能力				
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現実社会の諸課題（政治、経済、法など）に関する現状や制度及び概念についての理解 ・ 調査や諸資料から情報を効果的に調べてまとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現実社会の課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力 ・ 現実社会の諸課題の解決に向けて、協働的に追究し、根拠をもって主張するなどして合意を形成する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に国家・社会の形成に主体的に参画しようとする態度 		
各教科等との関連				
国語	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	【租税教育】毛筆・硬筆コンクール参加 租税教室 1年 県法人会職員による講話 2年 税務課職員による講話 3年 税理士による講話 財政教室 3年で実施 ポスターコンクール参加 1年「働く人に学ぶ」	技術・家庭 教科別道徳 特別活動 学習の時間	<p>【技術分野】</p> <p>A 材料と加工の技術（3） B 生物育成の技術（3） C エネルギー変換の技術（3） D 情報の技術（4）※主権者として理解していることが求められる現代的課題</p> <p>【家庭分野】</p> <p>C 消費生活・環境（1）「いろいろな購入方法」（2）「消費者の権利と責任」 ※主権者として理解していることが求められる現代的課題</p> <p>C 主として集団や社会との関わりに関すること 〔遵法精神、公徳心〕〔公正、公平、社会正義〕〔社会参画、公共の精神〕〔勤労〕 〔よりよい学校生活、集団生活の充実〕〔郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〕〔我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度〕〔国際理解、国際貢献〕</p> <p>学級活動 「学級や学校における生活づくりへの参画」「一人一人のキャリア形成と自己実現」 生徒会活動 「生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画と運営」 学校行事 「勤労生産・奉仕的行事」</p> <p>横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく。</p>
社会	<p>【地理的分野】 日本の諸地域 【歴史的分野】 開国と近代日本の歩み、二度の世界大戦と日本、現代の日本と私たち 【公民的分野】 私たちの暮らしと現代社会、個人を尊重する日本国憲法、私たちの暮らしと民主政治私たちの暮らしと経済、安心して豊かに暮らせる社会、国際社会に生きる私たち</p>			
数学	D データの活用			
理科	科学技術と人間 自然と人間 ※主権者として理解していることが求められる現代的課題			
英語	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に表現する。			
音楽	我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わう。			
美術	美術によって生活を明るく豊かなものにする。			
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現する。			

(6) 研究活動の経過

令和4年度

4月	・租税教育推進校委嘱の確認
5月	・研修主題・計画の立案
6月	・租税教育（3年生）打ち合わせ、準備 ・税に関する作品への取組に関する打ち合わせ
7月	・租税教室の実施（3年生） ・税に関する作品（作文、標語、ポスター等）
8月	・税に関する作品の選定
9月	・税に関する作品の選定・応募
10月	・税に関する授業実践（3年生社会科）：私たちの暮らしと民主政治
11月	・令和4年度鹿児島県租税教育研究会参加 ・税に関する授業実践（3年生社会科）：私たちの暮らしと経済
12月	・税に関する授業実践（3年生社会科）：安心して豊かに暮らせる社会
1月	・税に関する書籍の選定、購入
2月	・令和4年度の実践のまとめ ・財政教室（3年生）打ち合わせ
3月	・財政教室の実施（3年生） ・税に関する書籍コーナーの設置、紹介

令和5年度

4月	・令和5年度の確認
6月	・租税教育（全学年）打ち合わせ、準備 ・税に関する作品への取組に関する打ち合わせ
7月	・租税教室の実施（全学年） ・税に関する作品（作文、標語、作文等）
8月	・税に関する作品の選定 ・活動報告のまとめ、資料作成
9月	・税に関する作品の選定・応募 ・生徒の租税に対する意識調査の実施
10月	・税に関する授業実践（3年生社会科）：私たちの暮らしと民主政治 ・研究冊子完成、発表準備
11月	・令和5年度鹿児島県租税教育研究会発表 ・税に関する授業実践（3年生社会科）：私たちの暮らしと経済
12月	・税に関する授業実践（3年生社会科）：安心して豊かに暮らせる社会
1月	・財政教室（3年生）打ち合わせ
2月	・財政教室の実施（3年生）
3月	・研究のまとめ、今後の方向性の検討

3 研究の実際

(1) 令和4年度租税教室

令和4年度はこれまでの取組を実践し、目標達成のためにどういった改善をすることで研究目標の達成につながるかを検討することとした。本校では、毎年3年生を対象に税理士の方を講師として招き、租税の意義や役割、税金集めゲーム、財政活動について学習した。コロナ禍での授業ということで、5人の税理士の方が来校し、各クラスに分かれて授業を展開された。税に関する説明の前に「税理士」についてもお話しいただき、キャリア教育の充実を図った。



(生徒の感想)

- ・自分たちが普段使っている机やいす、ほうきなどが、みんなが払っている税金なんだ
と気がついて、大切にありがたく使おうと思った。
- ・税金集めゲームを通して、他の班の意見や講師の先生の意見も聞くことができ、本当に
答えが一つではないのが社会なんだということにも気づくことができた。
- ・税金にはいろいろな種類や集め方があることを知り、「平等」と「公平」は違うというこ
とを知りました。
- ・租税教室を受けるまで、「税理士」という職業名や「税」という言葉は耳にしたことがあ
ったけれど、税理士の方がどんな仕事をしているのか、税にはどのようなものがあり、なぜ
必要なのかについて知らなかつたし、考えたこともなかつた。いずれも私たちの生活の身
近にあり、深く結びついているとても大切な仕事と守らなければならない義務だとい
うことを知ることができてよかったです。
- ・日本は国の歳入の約3割を借金していると知って驚きました。そのうち半分しか返して
いないので、年々、国の借金が増えているのは大きな問題だと思いました。

(2) 令和5年度租税教室

令和5年度は税に関する生徒の意識を高めるため、全学年で租税教室を実施した。毎年3年生で税理士の方から講話ををしていただくことをふまえ、1・2年生では税理士以外の方からの講話をしていただけないかと依頼した。鹿児島地区租税教育推進協議会事務局の方のアドバイスもあり、1年生では法人会青年部会の方を、2年生では市役所税務課職員の方を講師に招き、教室を開催した。新型コロナウイルス感染症が5類となったこともあり、1・2年生については体育館で実施した。

① 1年生租税教室

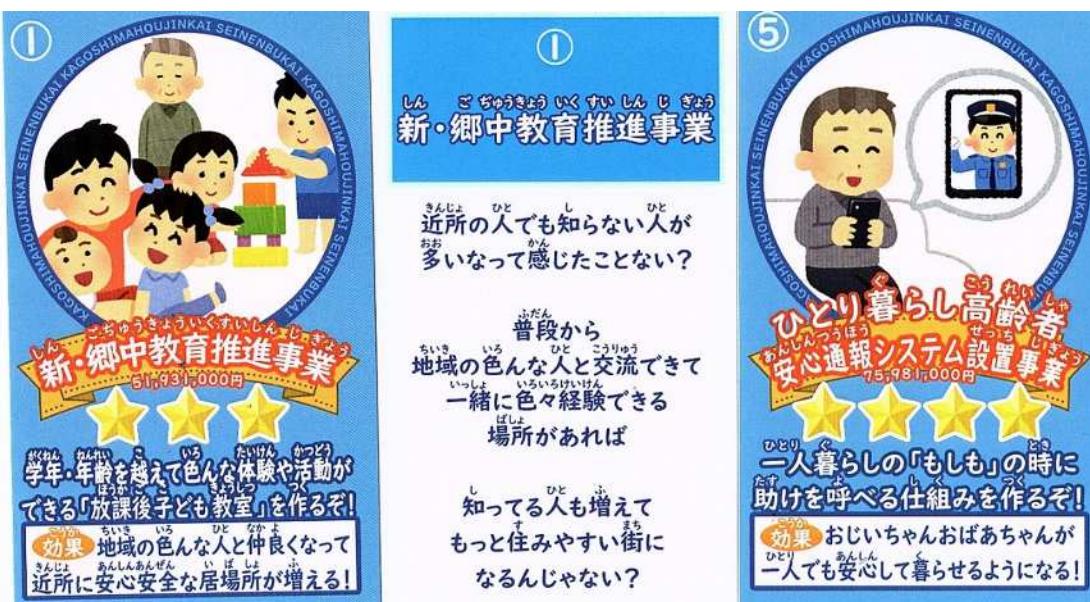
前半は、パワーポイント資料をもとに、税金や国の予算に関する知識について、クイズを交えながらお話し下さいました。



後半は、法人会青年部会の方が開発された教材をもとに、鹿児島をよりよくするための税金の使い方について、グループディスカッションをしながら考えた。

第六次鹿児島市総合計画基本構想及び前期基本計画に基づき、実際に行われている施策・事業の予算を7枚のカードで示し、1億円の範囲で鹿児島市のために優先して取り組んでほしい政策をグループで決定する活動を行った。小学生向けの教材で分かりやすいカードだったことから、生徒は意欲的に活動に参加し、真剣に話し合い活動を行っていた。また、それぞれで優先する政策内容の違いや意見をまとめることの難しさを体感できた。

<カードの例>



<ワークシート>

租税教室 ワークシート 【記入例】

【ルール】

- ① わたしたちが住む鹿児島市で優先してほしいと思う政策を選び、理由も考えましょう。
 - ② ①の意見をもとに、グループ内で鹿児島市に優先してほしい政策と理由を話し合いましょう。
- ※ ☆の合計が5つ以内であれば、いくつ政策を選んでもOKです。

氏名：

政策		私が選んだ政策 <input checked="" type="checkbox"/>	私が選んだ理由	みんなで選んだ政策 <input checked="" type="checkbox"/>	みんなで選んだ理由	今日の授業
①		<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	友達を増やすことができるから。 みんなの意見もメモしよう！	
②		<input checked="" type="checkbox"/>	ガイドさんから色々な話が聞けると楽しい と思うから 選んだ政策をチェック！	<input type="checkbox"/>		



租税教室当日、学級閉鎖のために受講できなかったクラスもあったため、後日社会の授業で本校社会科職員が実施した。



(生徒の感想)

- ・ 今日の授業で税金のことについて振り返ることができました。小学生の頃にも税金のことについて学んだけれど、良く覚えていなかったので、税金のことについて学べてよかったです。
- ・ 僕はこれまで「まだ12歳だから税金のことなんて考えなくていいや」と思っていましたが、今日授業を受けて、「僕もあと少ししたら税金のことについて考えないと」と思いました。
- ・ カードに絵や効果など書いてあり、とても分かりやすく、楽しく授業を受けることができました。
- ・ 僕は税金のことを「みんなを苦しめるもの」としか思っていなかったけれど、税金はみんなを守る役割があるんだと気づきました。
- ・ 鹿児島でいろいろな政策が行われていて驚きました。政策一つをするにも莫大な税金が使われているんだと思いました。
- ・ 県や国のために、税金をきちんと納め、将来自分や大切な人がお世話になるので、より税金のことを知りたいと思いました。
- ・ みんなが望む税金の使い方は違うんだなと思いました。集めた税金が中学生の生徒一人に110万円も使われていると知ったので、学校のものを大切にしたいです。
- ・ 実際に1億円を持ってみると、持てるけどとても重かったです。18歳になったら、選挙をしてみたいと思います。
- ・ 今日の授業を受けて、税金はとても大切なのだということが分かりました。また、1億円の使い道を地域のために自分なりに考えることができてよかったです。
- ・ 小学生の時もこの授業でしたが、その時とは考えたことが違った。
- ・ 消費税が上がったりすることは嫌だと思っていましたが、税金がないと私たちの生活は大変になるということが分かりました。
- ・ 全員が同じ意見ではなく、それぞれの理由や意見を聞くことで考えが深まりました。1億円は大金だけど、できる政策にも限りがあり、税金だけでは足りないということも分かりました。

② 2年生租税教室

パワーポイント資料をもとに、税のしくみや意義についてお話し下さいました。鹿児島市役所税務課の方の講話だったので、鹿児島市の財政状況についても詳しい説明を受けた。また、1年生同様、1億円のレプリカを持参していただき、その重さや価値を体感した。



(生徒の感想)

- ・ ゴミ回収、信号や道路の建設、安全な生活の保障など、税の大切さを学んだ。
- ・ 税金というものに关心がなく、国民の義務とぐらいにしか考えていなかったが、租税教室を受けて税金の詳しい使い道について興味がわいた。
- ・ 税金は「大人が支払うもの」ばかり考えていたが、租税教室で様々な種類の税金や使われ方について詳しく知ることができた。
- ・ 小学校の頃の租税教室でDVDを見たが、その内容を思い出し税金の必要性を改めて実感した。
- ・ もしも税金がなかったらという生活は耐えがたく、税金のかかる生活で良かったと思う。これから大人になるにつれて多くの税金を納めていくが、社会の恩恵に感謝しながら貢献していきたい。
- ・ 税金の使い道を知ったとき、自分にも無関係ではないことを感じた。
- ・ 国民が豊かで安心した暮らしができるような公共サービスを行うために必要な費用を、国民が納めている税金で補っていることを学んだ。
- ・ 社会を良くしていくための「会費」という言葉を聞いて、税金に対する考え方が前向きになった。
- ・ 身の回りの物に興味をもって目を向けるきっかけになった。

③ 3年生租税教室

令和4年度同様、税理士の方を講師に招き、同じ内容で講話ををしていただいた。体育館での一斉実施も可能だったが、税理士の方からこれまで同様各クラスでの実施をということだったので、同じように行つた。同じパワーポイント資料だったが、講師の方で進め方や内容のふれ方が異なり、それぞれに税の意義を理解しやすい内容だった。



(生徒の感想)

- 授業を受けるまでは「税金は必要なのか」と思っていたが、話を聞いて税に対する考えが少し変わった。
- 税金が一体何に使われているか、しっかり返答できなかつたが、租税教室で学んだことをもとに、税について改めて考えることができた。
- さまざまな税の種類があることを知り、さらに税について調べるきっかけを作ることができた。
- 税金のしくみについて学び、私たちが豊かで安心した暮らしができるように、税金が平等に集められているということを知ることができた。
- 税金についての基本的な知識を学ぶだけでなく、税金がどのように役立っているかや私たちにとってどのような影響があるかなど、生きた話を聞くことができた。
- 自分が知っていた税の種類は、10種類くらいしかなく、全部で50種類くらいあると聞き、衝撃的だった。
- 税金は自分にはあまり関わりがないだろうと思っていたが、授業を通して消費税など身の回りにはたくさんの税が関わって過ごしているということに気づくことができた。

(3) 税に関する授業実践

社会科の公民的分野において、税に関する授業を行った。そのうち行政改革に関する授業では、教科書だけでなく「わたしたちの生活と税」（中学生用租税教育教材）の教材を用いて、国家財政の現状を理解させ、低負担・低福祉の「小さな政府」と高負担・高福祉の「大きな政府」のどちらがよいか選択させ、その理由や必要不可欠な行政サービスについて考えさせた。それぞれの意見はロイロノートを用いて共有させた。

○「大きな政府」を選んだ理由(一部抜粋)

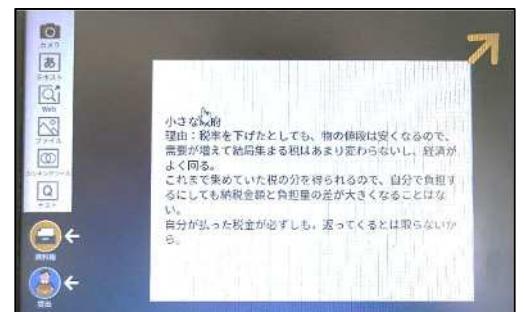
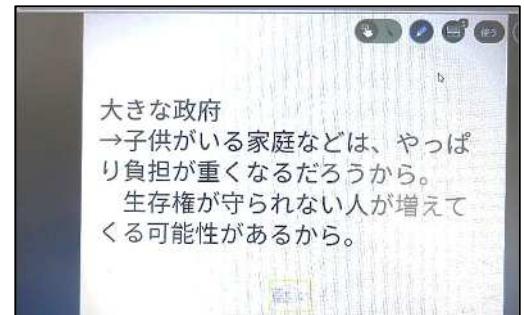
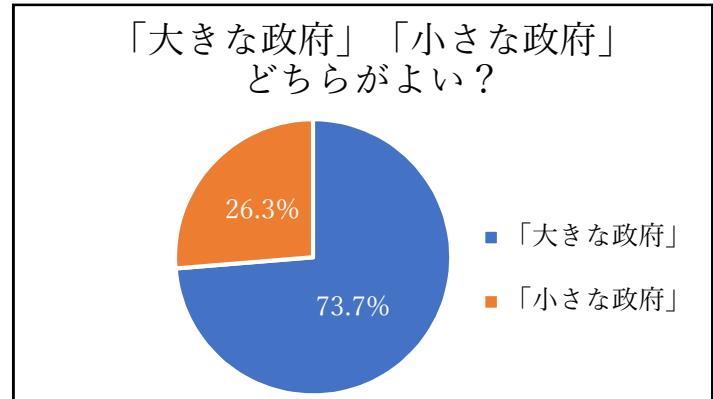
- 充実した行政サービスが受けられた方がよいと思うから。
- 収入の差で行政サービスが受けられないと、安心した暮らしを送れなくなるから。
- 個人ではどうしても解決できないことがあるから。
- 質の高い医療や福祉、教育を受けることで、生活が安定し、貧富の差が少なくなるから。
- 「いざというときのこと」も心配せず、安心して暮らせるから。
- 高福祉の方が少子高齢化対策となり、今後の日本の課題の解決につながるから。

○「小さな政府」を選んだ理由(一部抜粋)

- 必要なサービスは人によって異なるから、皆にとって必要なサービスに絞った方がよい。
- 日本は多くの借金を抱えており、これ以上増えていくのは危険だから。
- 行政サービスがよくても、税金が高ければ負担の方が多くなるから。
- 一人一人の負担が少なく、自由に自分らしい生活を送れるから。
- 多くの税金を払っても、本当に必要な行政サービスに使われているか疑問。
- さらに少子高齢化が進む中、一人一人の負担が増えていく可能性があるから。

○必要不可欠な行政サービス(一部抜粋)

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| ・義務教育の無償化 | ・高校まで義務教育とし、無償化する |
| ・救急車や消防車の出動 | ・警察による安心な町づくり |
| ・ゴミ収集や上下水道の整備 | ・道路や橋の補修 |
| ・子どもや高齢者の医療費 | ・命に関わる医療費の無償化 |
| ・高額な医療費がかかるような場合に一部負担する | |
| ・困っている人への支援(高齢者、障害者、一人親世帯など) | |
| ・災害時の復興支援 | ・少子高齢化対策 |
| ・地方の過疎化を改善するための、地域活性化の取組 | |



<ロイロノートの画面>

(4) 財政教室

鹿児島財務事務所の方のご協力で、3年生を対象に財政教室を行った。資料をもとに国会財政についての講義を受けた後、5～6人のグループに分かれ、「財務大臣になって予算をつくろう」ということで予算編成シミュレーションをし、発表や意見交換を行った。

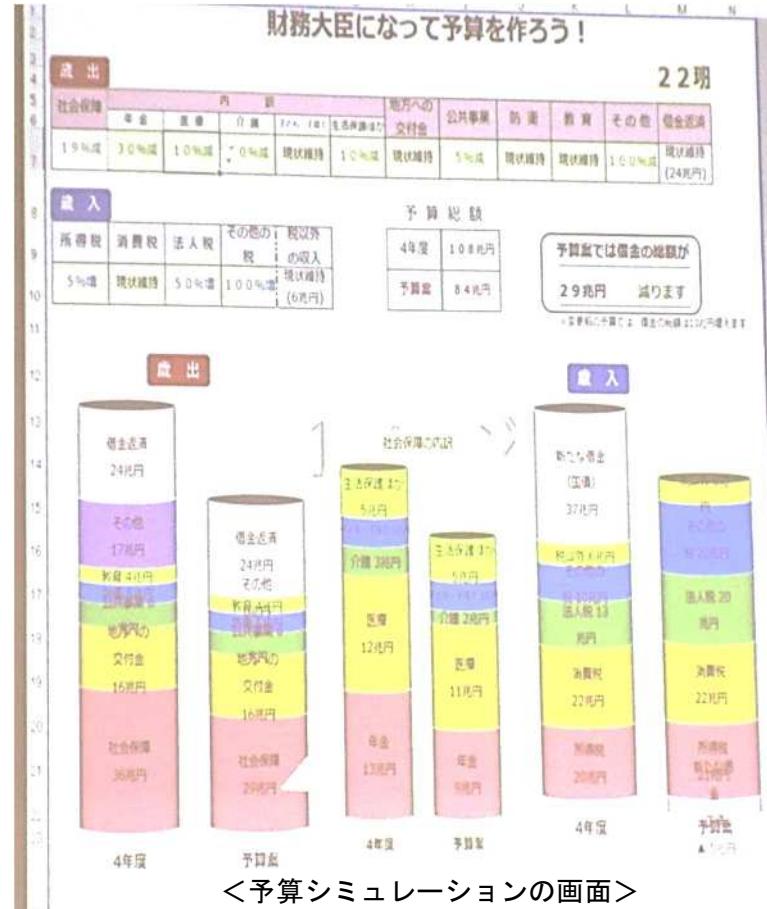


(生徒の感想)

- ・ 社会の授業でも財政について学んだが、今回の授業は楽しく、分かりやすい資料やDVDだったので、さらに深く学ぶことができた。
- ・ 話し合いの場がとてもためになった。班ごとに考えが違うのも班で意見を出し合うのもとても面白かった。次の世代として生きる私たちは、深く考えなければならないと思った。
- ・ 日本があそこまで多くの借金をしていたとは思わなかった。日本の税金は日本国民全員に関係があることなので、皆で考えていかなくてはならないものだと思った。
- ・ 国としてやりたいことがありすぎて、うまく調整することができなかつた。実際考えてみると、財務省の人たちの苦労がとてもよく分かった。

- 財政のことに関しては授業以外で考えたことがなかったけれど、分かりやすい資料や動画などを見て、また、グループで活動することを通して自分たちがつくりていきたい社会について考えることができた。財政について前よりも興味がわいた。

- 私たちの税金は日本の国民が生きる上で役に立っていることをよく知れてよかったです。選挙でも財政の知識を生かして、日本がよくなるように投票したい。
- 18歳になり選挙に行くときは、今回得た知識を活用しながら、よりよい未来



を築いてくれそうな人に投票したいと思った。

- グループワークで財政について意見交換することがとても勉強になった。たった6人でもひとりひとり財政に対する考えが違い、多角的な視点で何事も見ることができた。
- 「財政にはほとんど関わりがない」と思っていたが、この授業で思った以上に身近なものであることに気づいた。借金が多いことは知っていたので、どうやったら減らせるか考えていきたいと思う。
- 国の借金を減らすことを今まで軽く思っていたと感じた。歳出の内容はどれも大切なもので、そのために歳入を増やすと国民の負担が大きくなるため、難しいと思った。
- 自分の自由な考え方で予算案をつくってみたが、実際には指示してくれるよううまく調整しなければならないで難しいなと思った。僕らの世代やその次の世代の負担をなるべく小さくしたいと思った。
- 公民の授業で財政について学び、高齢者よりも若い世代を主に保障していくべきだと思っていた。しかし、今回の授業のグループワークで意見を交換し合う中で、さまざまな問題点があることを知り、財政の難しさを感じた。
- グループで予算案を考えたときは、難しくでできるわけがないと思っていたが、皆と話し合って一つの意見にまとめることができた。現実世界でも同じように国民が話し合いに参加し、意見を出していくべきだと思った。
- 漠然と日本の財政がひっ迫していることは知っていたが、DVDや授業を通して想像以上に危機的な状況であることが分かった。国が借金を重ねて私たちにとって決して無関係なことではなく、一人一人がこの課題について真剣に考え、皆が納得できるよりよい方向へ舵を切っていくことが大切だと思った。

(5) 税に関する作品への取組

令和4年度は租税教室を3年生だけ受けたので、税に関する作文と標語への取組を、夏休み課題の選択課題として取り組ませた。令和5年度は全学年で租税教室を実施したので、夏休み課題として生徒全員に税に関する作文を書かせ、さらに3年生には税に関する標語作成を選択課題として取り組ませた。校内で選定し、それぞれ出品した。

また、美術科と国語科に協力していただき、夏休み課題の作品募集の一つとして、ポスター作成や書道作成にも取り組んだ。

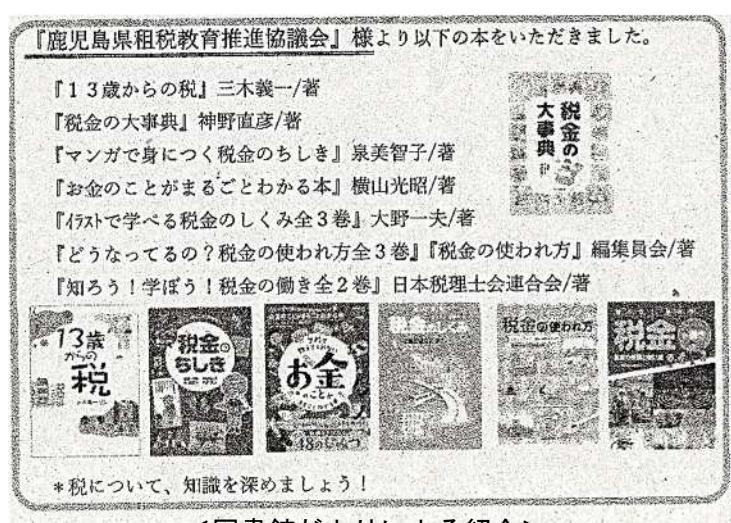
公益社団法人
鹿児島法人会 会長賞



鹿児島市立図書館

(6) 税の書籍コーナーの設置

税に関する興味・関心や知識を高めるため、税に関する書籍を選定し、学校図書室にコーナーをもうけて設置した。また、図書館だよりでも紹介した。



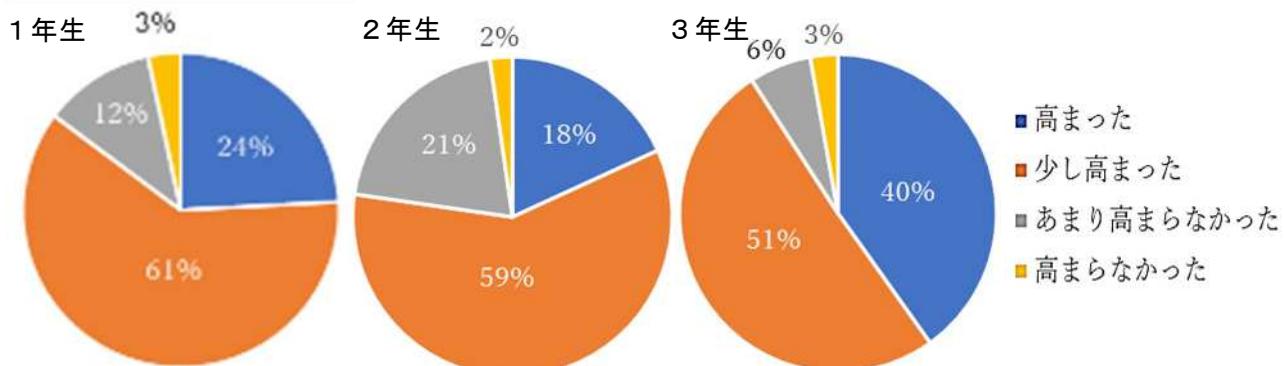
<図書館だよりによる紹介>

4 成果と課題

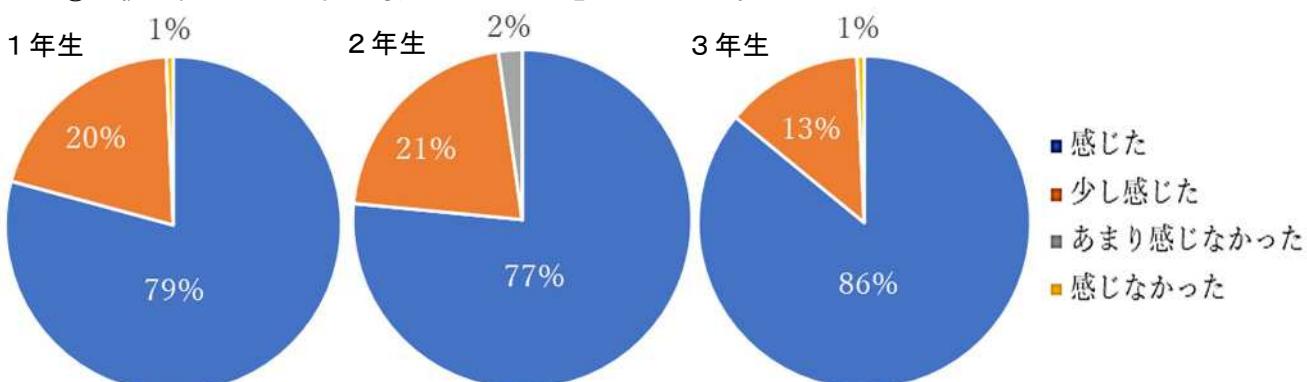
(1) アンケート結果と考察

令和5年度の1学期までの取組が、研究主題達成の成果につながったか検証するため、以下のアンケートを実施した。

① 税への関心が高まりましたか。

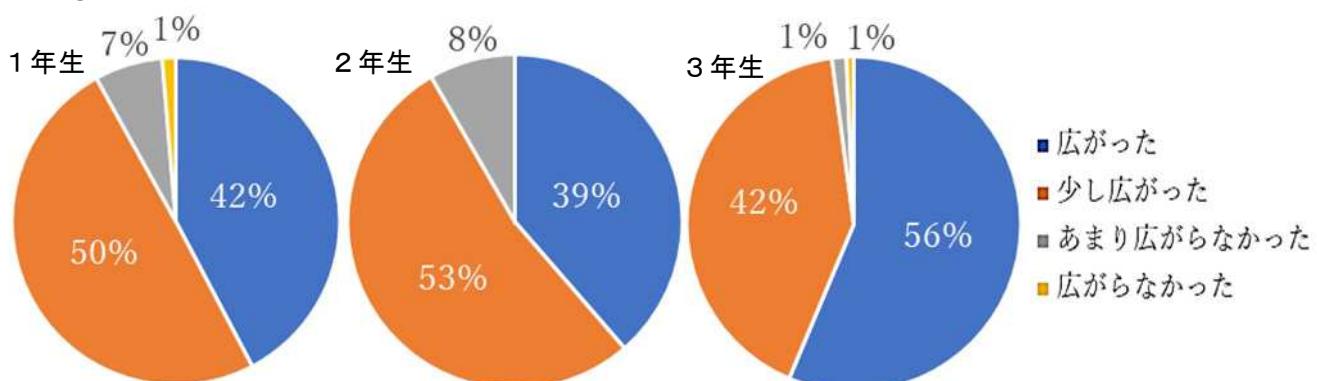


② 税が私たちの生活に身近なものだと感じましたか。



※ 1・3年生は「あまり感じなかった」と答えた生徒はなし。
2年生は「感じなかった」と答えた生徒はなし。

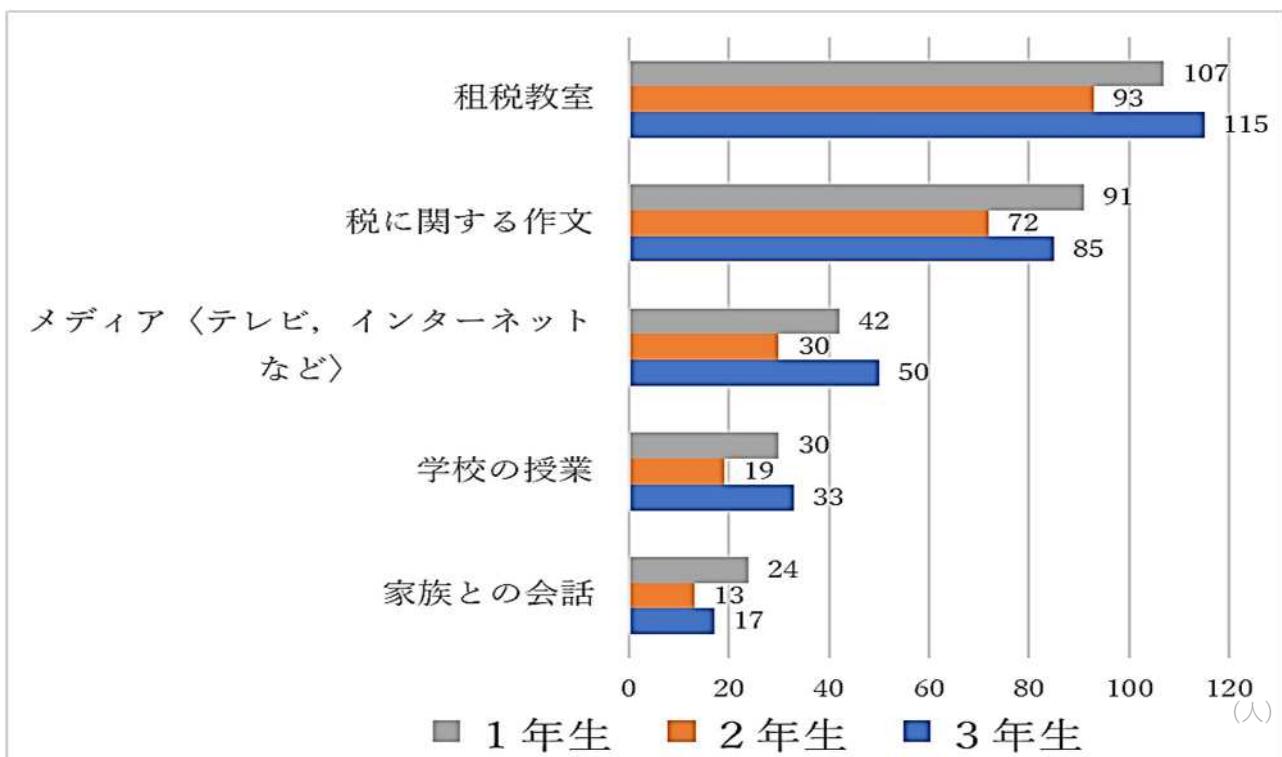
③ 税に対する知識は以前と比べて広がりましたか。



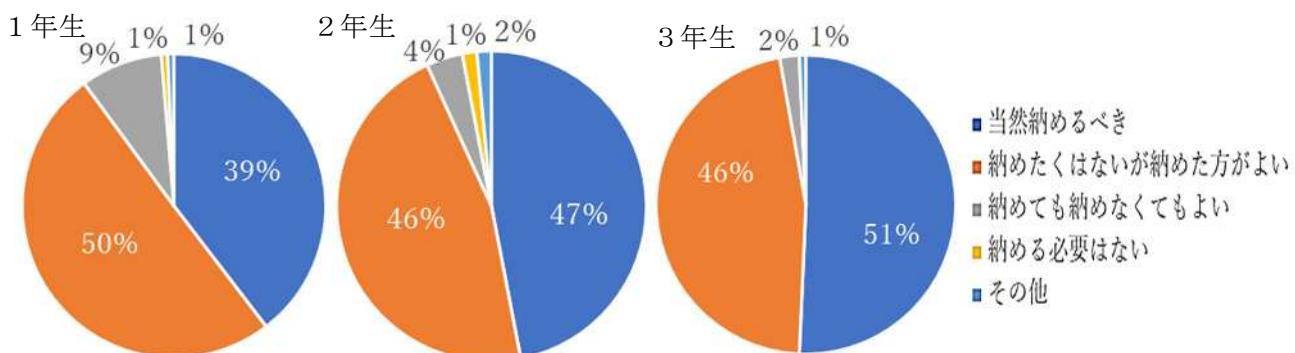
※ 2年生は「広がらなかった」と答えた生徒はなし。

③-1 「広がった」「少し広がった」と答えた人は、何をもって広がりましたか。(複数回答可)

1年生：137名 2年生：121名 3年生：139名 が回答



④ 税を納めることについてどう思いますか。



他の意見：納めた方がよいが、多い。（1年生）

岸田総理は、増税を検討しそう（2年生）

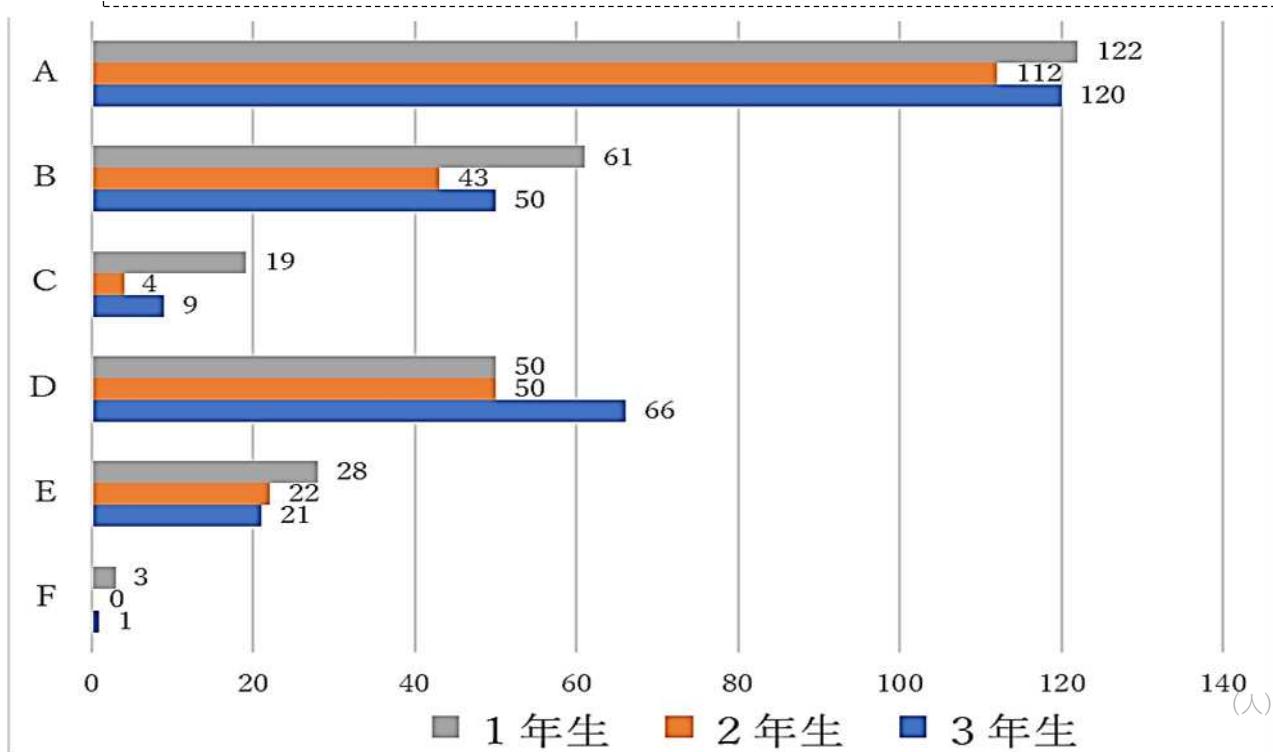
使い方次第で納めるべきか納めないべきかが変わってくる。（2年生）

納めるべきだが、国は税金の使い方にについて考えるべきだ。あまり大切な
ものに使っていないと思う。（3年生）

④-2 「納めるべき」「納めた方がよい」と答えた人は、なぜそう思いますか。（複数回答可）

1年生：134名 2年生：123名 3年生：138名 が回答

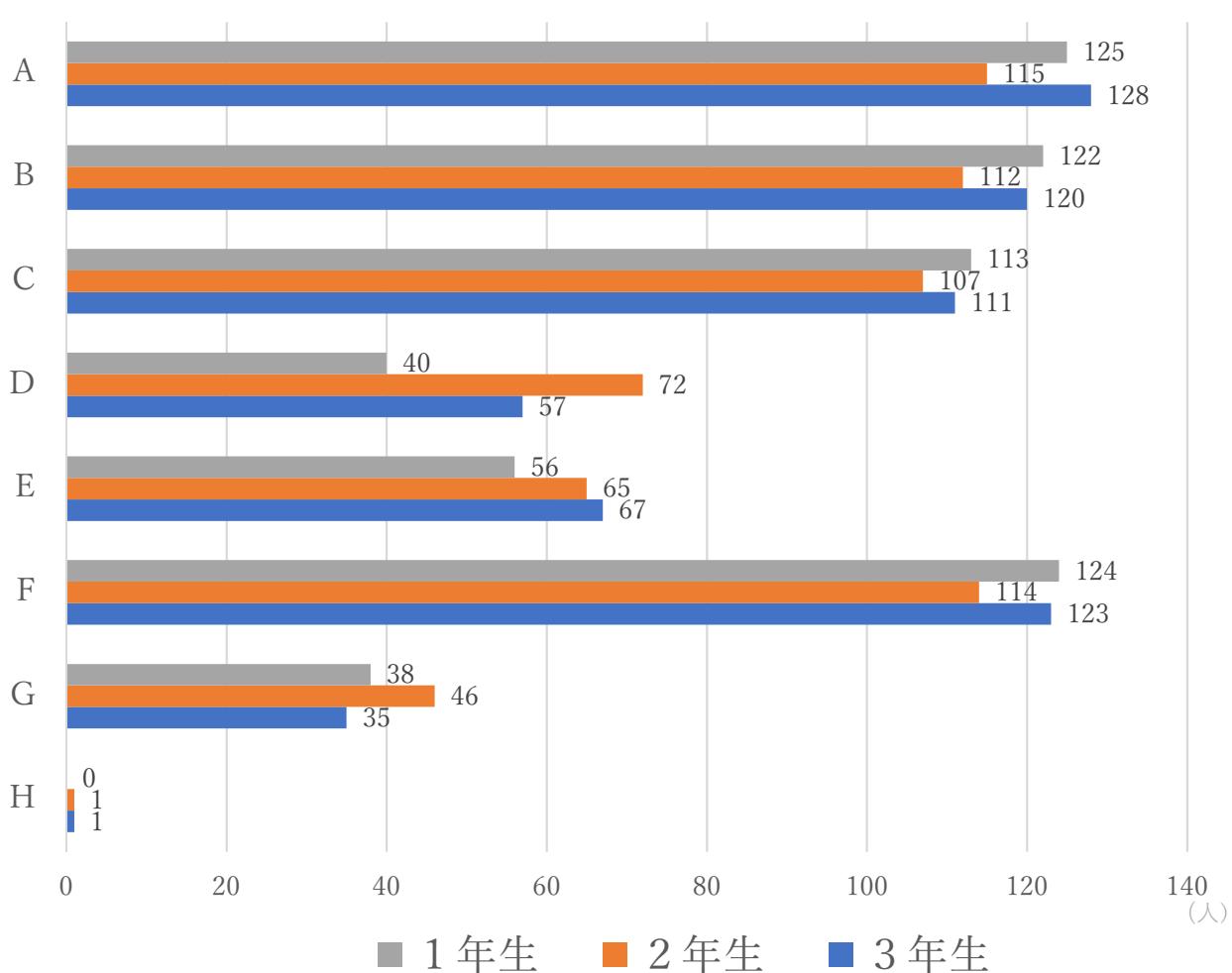
- (選択肢) A : 税があることで自分たちの生活が成り立っているから。
 B : 税が弱い立場の人や困っている人たちを助けるために使われているから。
 C : お金が多く持っている人から税をたくさん集めて少ない人に分けることができるから。
 D : 国民の義務だから。
 E : 政治を行うために必要だから。
 F : その他→納めないと捕まるから。（1年生）
 海外で病気を持つ人たちのために手術代として使う。（3年生）



⑤ 税の使われ方についてどう使われると良いと思いますか。(複数回答可)

1年生：149名 2年生：132名 3年生：142名 が回答

- (選択肢) A : 教育（学校や学習のため）
 B : 福祉（困っている人や病気、高齢者や子育てなど）
 C : 社会環境（道路、建物、ごみ収集など）
 D : 観光や文化（観光施設、文化施設など）
 E : 産業（農業や工業、商業発展のため）
 F : 災害（災害が起こった時、未然に防ぐ）
 G : 政治（国会議員や公務員の給料、政治を進めるための費用）
 H : その他→U.S.Jなどのテーマパーク(2年生)
 外国の支援(3年生)



アンケート結果から、租税教育推進のためのさまざまな取組によって、生徒の税に対する関心が高まり、多くの生徒にとって税が自分たちの生活に身近なものであると感じることができたということが分かる。学年によって関心の高さや身近に感じることへの違いが多少見られるが、これは租税教室の内容で生徒自身が税について考える参加型の活動があったかどうかも関係しているのではないかと推測できる。

また、税に関する知識の広がりも、どの学年においても80%以上の生徒が感じており、その多くが租税教室や税に関する作文など、租税教育推進の取組が影響しているということが分かった。そ

れだけでなく、テレビやインターネットなどのメディアを通じて、税に関することを自分で調べたり、家族との会話の話題にしたりと、学校における受け身的な知識の収集にとどまらず、生徒自ら主体的に税について学んだり考えたりすることで、知識の広がりを体感する生徒がいたことも分かった。

納税の必要性については、学年が上がるにつれ高い割合を示している。また、その他の意見として使い方による納税の必要性について言及している生徒もあり、興味やさまざまな教科での学びが、より深い考えをもてるようになったのではないかと考える。税の使い道についても、学年が上がるにつれてこちらが用意した選択肢を幅広く選択したり、選択肢にはない答えを書いたりと、税が自分たちの身近な生活に必要なだけでなく、日本社会全体はもちろん、世界のためにも必要であると感じる生徒がいると思える結果となった。

(2) 成果と課題

成果としては、アンケート結果や生徒の感想からも分かるように、税に対する関心や知識が深まり、研究主題に対して一定の成果が上げられたと感じている。社会科の授業だけではなく、税の専門家の方を招いて租税教室や財政教室を行ったり、税について考えたりする機会を与えたりすることで、授業では理解できなかったことをより深く理解きるようになったことは、研究校としての取組の成果と言える。

課題としては、社会科を中心として研究を進める中、なかなか学校全体としての取組ができなかつたことがあげられる。租税教室や財政教室では、管理職や関係する学年の職員全員が参加して実施されたが、今後、各教科と税との関連について年間指導計画を見直し、学校全体として取り組むことで、より一層生徒の意識も高まるのではないかと感じた。

また、ある生徒の租税教室の感想に「小学校の時にやったのとほとんど同じだったから楽しくなかった。」との記述があった。租税教室の実施計画をたてる中で、小学校でも租税教室を実施していくことは確認したが、内容までは把握していなかった。本校は2つの小学校から生徒が入学しているが、1・2年生ともに半数の生徒は小学生の時に受けた内容と同じものだったことがあとで分かった。前述の生徒は感想の続きとして「でも、新しい友達の意見を聞いて、税金についてさらに詳しくなったし、考えるきっかけにもなった」と書いてくれたが、事前に把握することでいろいろな立場の税の専門家の講義を受け、税に対して多角的に考える生徒を育成することにつながるのではないかと考えた。

5 おわりに

2年間にわたり、租税教育研究委嘱校として、「租税教育を通して、税に関する関心と正しい理解を深めるとともに、これからの中を、将来の納税者として、他とともによりよく生きる生徒を育成する」を研究主題に掲げ、実践してきた。十分な実践とは言えないが、生徒が税に対して関心をもち、これからの中を生きる公民としての資質を高められたのではないかと考えている。今後とも税に関して学ぶ機会を積極的に設定し、租税教育の推進に努めてまいりたい。

最後に、このような有意義な機会を与えてくださった鹿児島県租税教育推進委員会をはじめ、何度も本校に来てくださりアドバイスしていただいた鹿児島税務署の方々、鹿児島財政事務所や鹿児島法人会など諸関係機関の方々に大変感謝している。心からお礼を申し上げたい。